

平成16年度 第6回常任委員会 議事録

日時：平成17年3月8日（火） 14:00～17:00

場所：土木学会 講堂

出席者：丸山委員長、石橋（代理：津吉）・猪熊・上田・魚本・梅原・岡沢・金津（代理：松村）・河野・小島・坂井・堺・佐藤（良）・島・鈴木・十河・竹田・辻・堤・手塚・富田・二羽・福手・松岡・宮川・睦好・山本・六郷・渡辺の各常任委員、前川幹事長、井上・宇治・中村・三島・横田の各幹事、大野オブザーバー（以上全36名）、松沼事務局職員

配付資料：

6-0 平成16年度 コンクリート委員会第6回常任委員会 議事次第

6-1 平成16年度 第5回常任委員会 議事録（案）

6-2 吹付けコンクリート研究小委員会・12月17日コンクリート常任委員会からの意見への対応

6-3-1 アルカリ骨材反応対策小委員会報告書（案） - 鉄筋破断の重み -

6-3-2 同 はじめに

6-3-3 同 第 編アルカリ骨材反応およびそれに伴う鉄筋破断の実態・メカニズム

6-3-4 同 第 編 ASR による鉄筋破断等の影響を受けた構造物の安全性照査

6-3-5 同 第 編 ASR によって劣化した構造物の補修・補強

6-3-6 同 おわりに

6-3-7 同 平成16年12月17日版意見対応表

6-3-8 同 平成17年3月8日常任委員会提出に対する意見回答書

6-4 電力施設解体コンクリートを用いた再生骨材コンクリートの設計施工指針（案）「耐アルカリ骨材反応性の照査」方法について

6-5-1 コンクリート構造物の環境性能照査指針（案）

6-5-2 環境側面への取組み

6-5-3 各種団体の環境技術に対する取組み

6-5-4 官庁施設の総合的環境性評価・表示手法研究会の報告書の概要

6-5-5 環境性能評価手法（LCCO₂）

6-5-6 環境性能評価手法（LCW と LCC）

6-5-7 付録資料2 環境側面の関連法規類

6-5-8 3. コンクリート関連材料の環境負荷の現状

6-5-9 4. 各種構造物における大気排出物量に関するケーススタディ

6-5-10 4.2 RC ラーメン高架橋における大気排出物量に及ぼす構造形式の影響に関するケーススタディ

6-5-11 4.3 PC 橋上部工における構造形式の影響

6-5-12 4.3.3 各ケースにおける数値算出根拠

6-5-13 4.4 道路橋脚における大気排出物量に及ぼす構造形式の影響

6-5-14 4.5 ボックスカルパート施工時のプレキャスト化の評価

6-5-15 4.6 過酷塩害環境下における電気化学的防食工法の CO₂ 排出量に関するケーススタディ

6-5-16 付録 コンクリートへの副産物利用に関する環境面からの評価

- 6-6 モンゴルにおけるセミナー実施について
- 6-7 平成 17 年度全国大会開催に伴う研究討論会企画募集について
- 6-8 示方書連絡調整小委員会委員構成 ほか
- 6-9 平成 16 年度コンクリート委員会一般会計・特別会計会計状況
- 6-10 「コンクリート標準示方書（性能照査編）による設計計算例」に関する講習会の開催について
- 6-11 電子 Newsletter 創刊号発刊について
- 6-12-1 JST 向け Web 教材作成 提案書の審査結果について（報告）
- 6-12-2 JST 向け Web 教材作成提案書
- 6-13 平成 17 年度「重点研究課題（研究助成金）申請書」
- 6-14 3 種委員会の公募について
- 6-15 第 13 回複合材料界面シンポジウム参加募集
- 6-16 「表面保護工法設計施工指針（案）に関する講習会」開催のご案内
- 6-17 Kumamoto International Workshop on Fracture, Acoustic Emission and NDE in Concrete
- 6-18 「吹付けコンクリート指針（案）に関する講習会」開催のご案内
- 6-19 第 49 回日本学会材料研究連合講演会講演募集（案）
- 6-20 「電力施設解体コンクリートを用いた再生骨材コンクリートの設計施工指針（案）」に関する講習会の開催について

議 事

1. 前回議事録の確認（平成 16 年度第 5 回常任委員会）

資料 6-1 の平成 16 年度第 5 回常任委員会議事録（案）が承認された。

2. 審議事項

(1) 吹付けコンクリート研究小委員会・指針（案）

宇治幹事より、資料 6-2 に基づき、指針（案）への意見に対する対応について説明がなされた。試験方法については基準関連小委員会から意見をいただき、3 月 3 日の基準関連小委員会で承認されていることが報告された。また、資料 6-18 のとおり、7 月 8 日に野口英世記念会館で講習会を開催する予定であることが紹介された。

指針の表題として、同小委員会で議論した結果、設計・施工あるいは施工という語を省いて、「吹付けコンクリート指針（案）」として発刊したいとの提案がなされた。これに対しては、意見がなく、提案どおりの表題とすることで承認された。

(2) アルカリ骨材反対応策小委員会・報告書（案）

宮川委員より、資料 6-3-1～6-3-6 に基づき、アルカリ骨材反対応策小委員会報告書（案）の説明がなされた。同時に、資料 6-3-7 に基づき、平成 16 年 12 月 17 日版への意見への対応について説明がなされた。細かな点については十分に対応できていない箇所があるので、資料 6-3-8 により 3 月 31 日までに意見を提出して欲しい旨の依頼があった。

梅原委員より報告書（案）の表題に関して、「鉄筋破断の重み」という副題はふさわしくないとの意見が出され、この副題は削除することで承認された。

(3) 電力施設解体コンクリートを用いた再生骨材コンクリートの設計施工指針(案)

辻委員より、資料 6-4 により、設計施工指針(案)の説明がなされた。特に、資料中の表 5.4.1 および表 5.4.2 に示される高炉スラグおよびフライアッシュの置換率等について提案がなされた。

山本委員より、アルカリ量 $6\text{kg}/\text{m}^3$ を入れた理由について質問があり、過去の調査の結果の最大レベルの数値を用いたとの回答がなされた。

本提案についての異存は出ず、承認された。

(4) コンクリート構造物の環境性能照査指針(案)

堺委員より、資料 6-5-1~6-5-16 に基づき、コンクリート構造物の環境性能照査指針(案)についての説明がなされた。合わせて、本指針が示方書小委員会において十分な議論を経ておらず、直接常任委員会で議論することになった経緯について、丸山委員長より説明がなされた。

上田委員から、指針(案)は環境負荷の面だけでまとめられており、環境創生といった内容が含まれていないこと、また、騒音や振動といった使用性との仕分けについての意見が出された。施工時の騒音・振動については適用する基準がことなっているのではないかという意見が河野委員、猪熊委員から出された。

指針(案)の精読をお願いし、意見を 3 月 31 日までに堺委員あてに提出して欲しいとの要請がなされた。この意見に対する対応等を次回常任委員会にて報告する予定であることが説明された。

魚本委員から、題名、案とするかどうか、環境面へのプラス効果への記述が少ないといった議論が 2 月 2 日開催の示方書小委員会であったとの紹介がなされた。

丸山委員長から、従来のコンクリートの視点以外の様々な意見が出る可能性があるので、じっくり議論を重ねていきたいとの意見が出された。

(5) モンゴルにおけるセミナー実施

堺委員より、資料 6-6 に基づき、5 月 19 日開催予定のセミナーについて説明がなされた。モンゴル側からの要望に沿ったテーマおよび発表者の計画を立てているが、ボランティアベースとなっている。コンクリート委員会からの経費支援が要請され、吉田賞委員会への海外派遣援助申請で対応することとなった。

(6) 平成 17 年度全国大会開催に伴う研究討論会

前川幹事長より、資料 6-7 に基づき、全国大会における研究討論会企画募集について説明がなされた。千年コンクリートといった視点で超長期の材料安定性・耐久性、コンクリートの評価といったテーマで応募してはどうかという幹事会からの提案が承認され、座長は辻委員にお願いすることとなった。また、話題提供者の選定は座長に一任した。

辻委員から、ISO 対応特別委員会から建設製品の認証問題についての企画を検討しているという紹介がなされた。また、六ヶ所での放射性廃棄物に関する試験研究についても取り込んでいきたいという提案がなされた。

(7) 小委員会委員の追加・交代

丸山委員長より、資料 6-8 に基づき、示方書連絡調整小委員会、鉄筋継手指針改訂小委員会、コンクリートの表面被覆および表面改質技術研究小委員会、複数微細ひび割れ型繊維補強モルタルの評価と利用研

究小委員会の委員交代および追加についての説明がなされ、承認された。

(8) その他

辻委員より電力施設解体コンクリートを用いた再生骨材コンクリートの設計施工指針(案)の講習会を6月7日(火)13時~17時に開催する予定であることが提案され、承認された(資料6-20)。

3. 報告事項

(1) 平成16年度会計状況

前川幹事長より3月3日時点での会計状況について資料6-9が説明され、差引きがほぼ0となる見通しであることが報告された。

(2) 示方書規準編の価格

梅原委員より規準編が3月20日頃に発刊され、8400円(税込み)の定価となったことが報告された。

(3) 示方書小委員会・設計例および講習会

魚本委員より、資料6-10に基づき、講習会の内容が説明された。本日現在の申込者が117名であること、および5月20日に再度講習会を開催する予定であることが報告された。大学の授業等で使用する希望があれば松沼事務局職員に連絡すれば、新学期に対応可能であることが確認された。また、地方支部でも講習会を計画していることが紹介された。

(4) 示方書英訳版の価格

上田委員より、構造性能照査編が2100円、維持管理編が約1900円の定価で1000部発行することになった旨の説明があった。また、耐震性能照査編は1500円の予定であることが中村幹事より紹介された。丸山委員長より、海外でのセミナー等で有効に使えるように価格を下げているのでPRをして欲しいとの要請がなされ、ウェブ上で公開する件については、方針が確定していないので、どの程度のものを載せるかを今後検討していく方針であることが報告された。

(5) 電子Newsletter 創刊号の発刊

堺委員および中村幹事より、資料6-11に基づき、電子Newsletterの作成および創刊号の内容について説明がなされた。メールの配信先をできるだけ集めたいので情報提供をお願いしたいとの依頼がなされた。

土木学会の英文HPから直接入れるようにしてはどうかという意見が睦好委員から出され、学会国際委員会に依頼することになった。また、第1号にMessage from Chairmanが必要であるという意見が島委員から出され、国際関連小委員会で対応することとなった。日本国内にある大使館・領事館に情報を発信すると効果的であるということが魚本委員より紹介された。

(6) 第49回日本学術会議材料研究連合講演会

坂井委員より、資料6-19に基づき、講演会の講演募集について説明がなされ、セッション8「21世紀の建設材料とその適用」を土木学会より提案しているので、積極的に論文を投稿することが要請された。また、パネルディスカッション(9月15日)のパネラーとして宮川委員に依頼することとなった。

(7) 英文論文集

堺委員より当該会議の経過について報告がなされた。e-Journal を発刊するという原則に基づいて検討を進めていく方向であるが、分野別に分けない、論文投稿について厳しい条件を付さないといった方針であることが報告された。

(8) JST 向け Web 教材の制作

福手委員より、資料 6-12-1 および資料 6-12-2 に基づいて、JST 向け Web 教材作成の経緯および内容についての説明がなされ、今後、メンバー構成等を検討し、技術推進機構と共同で作業を進めていくこととなった。

(9) 平成 17 年度重点研究課題研究助成申請

横田幹事から、資料 6-13 に基づき、重点研究課題の申請状況について報告がなされた。

辻委員から、設計図書のチェック、受け入れといった照査システムの観点からの調査も含めて欲しいとの要望が出された。

(10) PC グラウトの設計施工指針について

睦好委員より、PC 技術協会が作成した PC グラウトの設計・施工指針について、各方面に意見照会をしており、常任委員にもメールにて依頼しているので、3 月 13 日までに意見を手塚委員まで提出することが依頼された。

(11) 3 種委員会の公募

中村幹事より、資料 6-14 に基づき、学会誌 4 月号の会告に掲載予定の 3 種委員会の公募について説明がなされた。積極的な提案に協力して欲しいとの依頼がなされた。

(12) 第 13 回複合材料界面シンポジウム

前川幹事長より、資料 6-15 に基づき、第 13 回複合材料界面シンポジウムの紹介がなされた。

(13) その他

1) 三島幹事より、資料 6-16～6-18 および資料 6-20 に基づいて、講習会および国際ワークショップの開催について紹介がなされた。

2) 魚本委員より、吹付けコンクリート指針の英訳および講習会の企画について、小委員会解散後も活動を続けることが確認された。

3) ISO 対応特別委員会の平成 17 年度上半期の助成について、設計計算事例の英訳に対して 90 万円が認められたことが、宇治幹事より報告された。

4. 委員長挨拶

丸山委員長より、平成 15・16 年度最後の常任委員会終了にあたっての挨拶があった。

以上